

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970600167
法人名	医療法人桃潤会
事業所名	在宅福祉施設 カーム三珠
所在地	山梨県西八代郡市川三郷町上野2968
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 20 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4 年 11 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>人生の先輩に対し敬意を払い失礼のない対応を心掛けている。入居者様個人個人の自由を尊重し自由に生活をしていただきながらADLを維持できるよう努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は「利用者が今の力を維持しながら自立できるようになる」ことを支援の柱にしています。その背景には、退居の条件に自力歩行が困難になった場合と記されていることから、今の力を維持させることが職員にとって日々の支援に対する思いの原動力になっているものといえます。利用者が住み慣れたホームでの暮らしを、できるだけ長く続けられるよう支援にあたってほしいと思います。共有スペースには季節を感じられる花や観葉植物を置いて、利用者にも和みの場と様々な刺激を与えています。大切な試みだと思っておりますので継続してまいります。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている(参考項目:2,20)(※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

在宅福祉施設 カーム三珠

自己評価	外部評価	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との調和を理念に掲げ、地域との連携が図れるように努めている。運営推進会議を通じて町の福祉支援課と民生委員さんとのコミュニケーションを図っている。	地域との調和を理念に掲げ、地域との連携が図れるように努めている。運営推進会議を通じて町の福祉支援課と民生委員さんとのコミュニケーションを図っている。	職員の「志」をフロアの目の届くところに掲示して確認・共有を図っています。運営母体にも、職員のタイムカードやエレベーターの出入り口に理念を掲示して、周知・共有を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍前は地域のスーパーに食材の買い物に出掛け、知人に会うと声を掛けてくれる。また、面会に来て下さるきっかけとなっている。地域の保育園の運動会に参加し、園児と一緒に競技などを行っている。地域の防災訓練にも参加している。	コロナ禍前は地域のスーパーに食材の買い物に出掛け、知人に会うと声を掛けてくれる。また、面会に来て下さるきっかけとなっている。地域の保育園の運動会に参加し、園児と一緒に競技などを行っている。地域の防災訓練にも参加している。	コロナ禍という状況の中で、以前のような付き合いや交流の機会が持てない状況です。これからも続くであろうコロナ禍を見通しての地域との関わりについては、検討していきたいとのこと。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、外との交流を控えている。	コロナ禍の為、外との交流を控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、活動状況などを報告している。コロナ禍の為、面会が出来ていない状態であり入居者とご家族の参加は出来ていない	2か月に1回開催し、活動状況などを報告している。コロナ禍の為、面会が出来ていない状態であり入居者とご家族の参加は出来ていない	対面での会議を実施しています。しかし、本人や家族については参加を自重していただき、会議の報告をしています。会議では、運営推進会議の開催の掲示を事業所内やウェブ上で周知するよう意見が出されました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加していただいている。居室が空いている時などは町へ連絡し紹介していただいている。	運営推進会議に毎回参加していただいている。居室が空いている時などは町へ連絡し紹介していただいている。	グループホームが地域密着であることから、特に空床になった際は待機利用者の有無についての情報交換を密にしています。過去には、町主催のバザーに出展したり、町の連絡協議会に参加していたとのこと。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり、拘束と思う事について各職員から聞き取りをするなど身体拘束をしないように取り組んでいる。	身体拘束委員会があり、拘束と思う事について各職員から聞き取りをするなど身体拘束をしないように取り組んでいる。	事業所内で、職員に対して身体拘束にあたることについて個別に考えてもらい、各ユニットで検討しています。現在は身体拘束の場面はないが、身体拘束に至る際のマニュアルや同意書は備えられています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づいて職員に徹底している。施設内でも職員が研修を受けている。虐待と感ずる事などを職員に聞き取りしている。	虐待防止マニュアルに基づいて職員に徹底している。施設内でも職員が研修を受けている。虐待と感ずる事などを職員に聞き取りしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は青年後見制度を利用している方がいないが、今後必要な方には制度の情報を提供できるよう勉強していきたい。	現在は青年後見制度を利用している方がいないが、今後必要な方には制度の情報を提供できるよう勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と利用約款を利用し、入居時に十分な説明を行い理解・納得していただいている。また、改定等の際には書面でご家族にお知らせし理解を得ている。	重要事項説明書と利用約款を利用し、入居時に十分な説明を行い理解・納得していただいている。また、改定等の際には書面でご家族にお知らせし理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族の参加を促し、会議の中でご家族・入居者の要望や意見を聞き、それらを運営に反映している。意見・要望等を気軽に話せる雰囲気作りにも心掛けている。意見箱も設置してある。今年度は運営推進会議への参加で出来ていない為、電話連絡や受診時に近況報告し意見等聞いている。	運営推進会議にご家族の参加を促し、会議の中でご家族・入居者の要望や意見を聞き、それらを運営に反映している。意見・要望等を気軽に話せる雰囲気作りにも心掛けている。意見箱も設置してある。今年度は運営推進会議への参加で出来ていない為、電話連絡や受診時に近況報告し意見等聞いている。	運営推進会議での意見等の集約をはじめ、日々の面会や電話連絡を通じて意見や要望を聞いています。過去には自宅の雑草が気になる方の相談で、事業所からシルバー人材に依頼して対応したケースがありました。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

在宅福祉施設 カーム三珠

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が月に1度個々の職員と話し合いをする機会を設けている。	管理者が月に1度個々の職員と話し合いをする機会を設けている。	管理者による面談が定期的実施されています。面談の内容としては、勤務体制上の時間や夜勤の相談が多いとことで、職員が働きやすい環境作りに留意されています。管理者では対処できない課題については法人の事務長に上げて対応しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は現場の職員と関りながら、業務をこなしている。理事長の訪問は週1回あり、そこで色々な事を相談できる環境にある。	管理者は現場の職員と関りながら、業務をこなしている。理事長の訪問は週1回あり、そこで色々な事を相談できる環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、職員の外部との交流を制限している。	コロナ禍の為、職員の外部との交流を制限している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近では県内の協会に参加できていない(人員不足の為)いくつかの施設との交流はあり相談している。	最近では県内の協会に参加できていない(人員不足の為)いくつかの施設との交流はあり相談している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と話し合う場を作り、困っている事や不安などを聞き、安心して生活出来るよう努めている。	ご本人と話し合う場を作り、困っている事や不安などを聞き、安心して生活出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するまでに気軽に訪問していただき、話が出来る雰囲気作りに努めている。	入居するまでに気軽に訪問していただき、話が出来る雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・本人の実情や要望についてしっかり把握できるよう努めている。	ご家族・本人の実情や要望についてしっかり把握できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族から本人の習慣としていた事や趣味などの情報をできるだけ得て、その人らしい生活が送れるよう心掛けている。	ご家族から本人の習慣としていた事や趣味などの情報をできるだけ得て、その人らしい生活が送れるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況も踏まえ報告している。また、本人の要望を叶えられるようにご家族の協力も得ている。	面会時には近況も踏まえ報告している。また、本人の要望を叶えられるようにご家族の協力も得ている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

在宅福祉施設 カーム三珠

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に馴染みの物を持参していただくようお願いしている。ご家族に本人の居場所を伝えてもらい、施設に訪ねてきてくれるようお願いしている。気軽に面会できる雰囲気作りにも努めている。現在は面会が出来ない為、電話等により関係を継続している。	入居時に馴染みの物を持参していただくようお願いしている。ご家族に本人の居場所を伝えてもらい、施設に訪ねてきてくれるようお願いしている。気軽に面会できる雰囲気作りにも努めている。現在は面会が出来ない為、電話等により関係を継続している。	現在は馴染みの場所のある利用者はいないとのことで、馴染みの人については一緒に外出をする機会が持たれています。コロナ禍で面会が困難な状況ですが、窓越しの面会や、ラインによるビデオ面会の機会を設けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格、好み、能力等を把握し日常生活の中でそれぞれの入居者が活躍できる場を提供している。性格が合わずぶつかってしまう時には席の移動、フロアの移動等行っている。	入居者の性格、好み、能力等を把握し日常生活の中でそれぞれの入居者が活躍できる場を提供している。性格が合わずぶつかってしまう時には席の移動、フロアの移動等行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も関わりを必要とされる場合、その後の相談、支援を行いたい。退居後の施設や病院等に本人の様子を見に面会に行っている。	退居された後も関わりを必要とされる場合、その後の相談、支援を行いたい。退居後の施設や病院等に本人の様子を見に面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活を把握し、希望に添えるよう努めている。ご家族にも協力を得ている。ご家族より昔の本人の様子を聞き取り、少しでも本人を理解できるよう努めている。	入居者の生活を把握し、希望に添えるよう努めている。ご家族にも協力を得ている。ご家族より昔の本人の様子を聞き取り、少しでも本人を理解できるよう努めている。	意思表示の困難な方に対しては、仕草やゼスチャーでの反応から読み取ったり、以前の行動観察から察して思いをくみ取っています。月に1回のケア会議の中で、その人の思いについて職員の意見を聞いて、内容の共有を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族との面談の場で情報収集している。これまでのサービス利用時の情報、経過等を関係機関より情報を得るようにしている。	入居時にご家族との面談の場で情報収集している。これまでのサービス利用時の情報、経過等を関係機関より情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の変化や心身の状態を具体的に記録し、有する能力、心身の状況など職員間で共有している。	1日の変化や心身の状態を具体的に記録し、有する能力、心身の状況など職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時などに家族に普段の様子を伝えながら、意向を聞き取り計画に反映するようにしている。日常生活の中で本人の意見等を聞き取り、実現できるように努めている。本人の状態に合わせ職員間で検討し、よりよい生活が送れるよう努めている。今年度は面会が出来ない為、電話連絡や受診時などに意向を聞き取りしている。	面会時などに家族に普段の様子を伝えながら、意向を聞き取り計画に反映するようにしている。日常生活の中で本人の意見等を聞き取り、実現できるように努めている。本人の状態に合わせ職員間で検討し、よりよい生活が送れるよう努めている。今年度は面会が出来ない為、電話連絡や受診時などに意向を聞き取りしている。	介護計画は、本人や家族からの要望・思いを介護支援専門員を中心としたチームで検討し、介護計画に反映しています。また、ケースによっては訪問診療のDrや看護師、併設のPT等にも加わってもらい介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個々に記録し、職員間で共有している。少しでもの変化にも気づき対応している。	日々の記録を個々に記録し、職員間で共有している。少しでもの変化にも気づき対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしい生活が送れるように、その時々生まれるニーズにできるだけ対応していきたい。インフォーマルサービス等の利用も考えたい。	その人らしい生活が送れるように、その時々生まれるニーズにできるだけ対応していきたい。インフォーマルサービス等の利用も考えたい。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

在宅福祉施設 カーム三珠

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、できるだけ地域資源の活用も考えたい。	地域資源を把握し、できるだけ地域資源の活用も考えたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からのかかりつけ医を継続している。定期受診はご家族様に依頼している。緊急時には施設側に対応する時もある。併設のDr.の回診もあり病状等相談し、必要であれば病院受診をご家族にお願いすることもある。病状に変化がある時は職員が付き添い様子を伝えるようにしている。	在宅からのかかりつけ医を継続している。定期受診はご家族様に依頼している。緊急時には施設側に対応する時もある。併設のDr.の回診もあり病状等相談し、必要であれば病院受診をご家族にお願いすることもある。病状に変化がある時は職員が付き添い様子を伝えるようにしている。	入居時に併設のDr.の診療が可能であることを説明しています。現在の利用者については症状の経過が分かっていることから、殆どがかかりつけ医を継続しています。緊急時には、併設のDr.の診療も可能であり、家族にとっては安心が担保されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で情報や気づきを随時併設の看護師に相談している。場合によっては本人の様子を直接見に来られ、必要な処置等を行ったり、指導を行う。	日常の関わりの中で情報や気づきを随時併設の看護師に相談している。場合によっては本人の様子を直接見に来られ、必要な処置等を行ったり、指導を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を作成し、情報を伝えている。また、入院中の様子など病院関係者と連絡を取っている。可能であれば入院中の様子を見に行っている。	入院時には情報提供書を作成し、情報を伝えている。また、入院中の様子など病院関係者と連絡を取っている。可能であれば入院中の様子を見に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に特養の申請をお願いしている。施設内で重度化した時には、早めに病院受診し早い段階から対策を取っている。自力歩行が出来なくなってしまうと、施設の利用が出来なくなってしまう事をご家族に理解してもらっている。歩行が不安定となった段階で、ご家族と話し合いの場をもつよにしている。	入居時に特養の申請をお願いしている。施設内で重度化した時には、早めに病院受診し早い段階から対策を取っている。自力歩行が出来なくなってしまうと、施設の利用が出来なくなってしまう事をご家族に理解してもらっている。歩行が不安定となった段階で、ご家族と話し合いの場をもつよにしている。	ターミナルケアはしていないため、入居時より重度化した場合や自力歩行ができなくなった際は、特養への変更等、次の生活の場について説明しています。自力歩行については、事業所が備える設備との兼ね合いで、シルバーカーの利用者については入居が継続されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に併設の老健と合同で救急時の対応等の研修を消防署を含めて行っているが、いざという時に対応できない事もある為、今後研修の場を増やす事も検討していきたい。	定期的に併設の老健と合同で救急時の対応等の研修を消防署を含めて行っているが、いざという時に対応できない事もある為、今後研修の場を増やす事も検討していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の老健と共に避難訓練を行っている。災害時の避難誘導については職員に伝えている。夜間想定避難訓練を今後行う予定があり計画している。災害時には近所の協力も得られるよう調整している。	併設の老健と共に避難訓練を行っている。災害時の避難誘導については職員に伝えている。夜間想定避難訓練を今後行う予定があり計画している。災害時には近所の協力も得られるよう調整している。	事業所はハザードマップの対象外区域との事ですが、山を背にしており、土砂災害が想定されます。避難訓練は、当日勤務の職員で実施しています。コロナ禍にあり、消防署を呼んでの訓練はできていないとのことです。地域とは、災害時に互いに助け合う協定が交わされています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないよう職員間で心掛けている。また、気付いた時にはその場で注意するようになっている。	プライバシーを損ねないよう職員間で心掛けている。また、気付いた時にはその場で注意するようになっている。	プライバシーの面では特にトイレの声掛けについて、他の利用者さんに気づかれないように、耳元で声掛けしています。トイレの声掛けを拒否される方には、様々な言葉かけの工夫をして対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や仕草などを注意深く観察し、本人が希望を表したり自己決定できるよう支援している。外食に行った際は、自分の好きな物を食べられるようメニューより選択している。	表情や仕草などを注意深く観察し、本人が希望を表したり自己決定できるよう支援している。外食に行った際は、自分の好きな物を食べられるようメニューより選択している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

在宅福祉施設 カーム三珠

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内の日課に沿い日常生活を過ごしていただいているが、本人の希望を確認し、拒否が強い時には無理しないようにしている。	施設内の日課に沿い日常生活を過ごしていただいているが、本人の希望を確認し、拒否が強い時には無理しないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は馴染みの物を持参してもらっている。買い物に出掛けた時に本人の好みの物を購入するよう支援している。	衣類は馴染みの物を持参してもらっている。買い物に出掛けた時に本人の好みの物を購入するよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に合わせ、出来る事を職員と一緒にやっている。食材刻みが得意な方には食材刻みを依頼したり、あと片付け等を依頼している。なるべく多くの方が作業に参加できるようにしている。入居者より食べたい物を聞き取り、メニューに入れている。	一人一人の能力に合わせ、出来る事を職員と一緒にやっている。食材刻みが得意な方には食材刻みを依頼したり、あと片付け等を依頼している。なるべく多くの方が作業に参加できるようにしている。入居者より食べたい物を聞き取り、メニューに入れている。	食事はホーム内で調理されており、食材の処理の場面では利用者が役割をこなしています。利用者の病状を考慮した減塩食が提供されています。月の献立の中に、その月のイベントや季節を感じられる行事食を入れて提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別食の方に配慮している。個々に合わせ、主食のグラムを決め計って提供している。食事摂取量が少ない方は水分・食事チェックをし主治医に伝えている。嫌いな物がある方には別メニューで提供している。	特別食の方に配慮している。個々に合わせ、主食のグラムを決め計って提供している。食事摂取量が少ない方は水分・食事チェックをし主治医に伝えている。嫌いな物がある方には別メニューで提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。入居者の能力に応じ、一部介助しながら行っている。歯科医の往診もあり、口腔ケアチェックを行い指導を受けている。	毎食後に口腔ケアを行っている。入居者の能力に応じ、一部介助しながら行っている。歯科医の往診もあり、口腔ケアチェックを行い指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排尿パターンを把握しトイレ誘導し、自立に向けた支援を行っている。オムツ類も検討し本人に合った物を使用するよにしている。	一人一人の排尿パターンを把握しトイレ誘導し、自立に向けた支援を行っている。オムツ類も検討し本人に合った物を使用するよにしている。	できるだけトイレで排泄ができるよう本人の行動を察知して誘導しています。日中はオムツの使用を控えてパットで対応するようにしています。トイレに係る、介護用品の利用者負担の軽減を、職員間で共有しながら支援にあたっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品の摂取に心掛けている。特に便秘気味の方には食物繊維のファイバーを使用している。	食物繊維の多い食品の摂取に心掛けている。特に便秘気味の方には食物繊維のファイバーを使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各ユニットごとに隔日に入浴している。タイミングに合わせて入浴に誘導している。また、1番風呂に入りたいとの希望を優先している。本人の髪質に合わせてシャンプーを使い分けている。季節に合った入浴剤を検討し、皮膚のトラブルの防止に努めている。	各ユニットごとに隔日に入浴している。タイミングに合わせて入浴に誘導している。また、1番風呂に入りたいとの希望を優先している。本人の髪質に合わせてシャンプーを使い分けている。季節に合った入浴剤を検討し、皮膚のトラブルの防止に努めている。	入浴は個別で対応しています。拒否をされる方については、その方の特性に留意し、言葉がけやタイミングを見計らい誘っています。一番風呂に入りたいとする要望が多い時は、利用者が納得するように調整し対応しています。入浴介助については異性介助になっているが、希望者には同性介助を可能としています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方にはその習慣を尊重している。夜間寝つきが悪い方には足浴や湯たんぽ等を使用し気持ちよく休めるよう支援している。	昼寝の習慣がある方にはその習慣を尊重している。夜間寝つきが悪い方には足浴や湯たんぽ等を使用し気持ちよく休めるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

在宅福祉施設 カーム三珠

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋により薬の内容を確認している。薬の変更等での副作用にも注意を払っている。薬の変更後の本人の様子なども観察している。	処方箋により薬の内容を確認している。薬の変更等での副作用にも注意を払っている。薬の変更後の本人の様子なども観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人生活歴に合わせ、個々が喜びのある日々を過ごせるよう買い物、掃除、洗濯たみ、洗濯物干し等依頼し役割を持っていただいている。	一人一人生活歴に合わせ、個々が喜びのある日々を過ごせるよう買い物、掃除、洗濯たみ、洗濯物干し等依頼し役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は1か月に1回は季節に合った行事を企画し、外出の機会を設けていた。買い物に行きたい方は買い物に出掛けるよう支援している。年2回ご家族との親睦会を企画し、普段出掛けられないような所への外出も行っている。帰宅願望が強い方には気分転換に散歩等の支援を行っている。	コロナ禍以前は1か月に1回は季節に合った行事を企画し、外出の機会を設けていた。買い物に行きたい方は買い物に出掛けるよう支援している。年2回ご家族との親睦会を企画し、普段出掛けられないような所への外出も行っている。帰宅願望が強い方には気分転換に散歩等の支援を行っている。	コロナ禍で以前のような外出支援ができていません。しかし、事業所の周辺は車の通りが少なく、利用者は散歩に出かけています。コロナ禍は、車での移動が増え、季節を感じられるドライブ先を考えています。	コロナ禍にあっても利用者の望む外出の可能性について、法人または事業所内で検討してみてください。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者のお小遣いは職員が管理しているが、自己管理ができる方は、少ない金額を財布に入れて管理している。支払い能力がある方は、自分で支払うよう支援している。	基本的には入居者のお小遣いは職員が管理しているが、自己管理ができる方は、少ない金額を財布に入れて管理している。支払い能力がある方は、自分で支払うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方には、かけるお手伝いをしている。本人宛に電話がある時には会話できるよう支援している。	電話をかけたい方には、かけるお手伝いをしている。本人宛に電話がある時には会話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にちなんだ掲示物を入居者と一緒に作製し掲示している。散歩に出掛けた際、季節の花を摘みフロアに飾っている。地域の方やご家族よりお花の差し入れもある。	季節にちなんだ掲示物を入居者と一緒に作製し掲示している。散歩に出掛けた際、季節の花を摘みフロアに飾っている。地域の方やご家族よりお花の差し入れもある。	コロナ禍で外出の機会が少なくなっていることから、季節を感じられる花や観葉植物を飾るようにしています。植物が身近にあることで心が和んだり、水やりの心配をしてくれたり利用者にも刺激になっています。退居された利用者の家族からも花をいただくこともあり、関係の継続が図られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにベンチを設置したり、畳にこたつ等を用意し利用してもらっている。	フロアにベンチを設置したり、畳にこたつ等を用意し利用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって馴染みの家具等を持ち込んでいただけるよう支援している。洋室と和室の居室があり空いている時には本人のスタイルに合わせ選択してもらっている。	本人にとって馴染みの家具等を持ち込んでいただけるよう支援している。洋室と和室の居室があり空いている時には本人のスタイルに合わせ選択してもらっている。	利用者は入居前に使用していたタンス等を持ち込んでいます。また、仏壇も持ち込んで心のよりどころにしている利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除、洗濯、食事、買い物など各個人の能力に見合った作業をこちらからお願している。出来るだけ沢山の方が手伝っていただけるよう心掛けている。	掃除、洗濯、食事、買い物など各個人の能力に見合った作業をこちらからお願している。出来るだけ沢山の方が手伝っていただけるよう心掛けている。		